自治会アンケート
調査票集計結果

平成３０年１１月

豊山町総務部総務課

＊自治会に関するアンケート調査について＊

１．目　　的　　自治会は、災害時に自分や家族の命を守るための大切な存在です。また、日常の生活においても、自治会は、町では対応しきれない、きめ細かな対応をすることができるなど、誰もが安全に安心して生活をするために、とても重要な役割を果たしています。

しかし、近年、自治会加入率は年々低下しており、加入を呼びかけても断られてしまったり、役員の成り手がいないといった悩みをお聞きします。

このたび、改めて自治会を取り巻く現状や課題を共有するとともに、町として、今後どのように自治会と関わっていけるかを考えるため、アンケート調査を行いました。

２．調査対象　　平成２９年度における豊山町内の全自治会（２７地区）の地区委員

３．調査期間　　平成３０年３月５日（月）～平成３０年４月１１日（水）

４．調査方法　　平成３０年３月の地区委員会にて、調査票を配布

５．回収結果

配布数	回答数	回収率
２７	２７	１００％

６．アンケート集計結果の公表

本調査の集計結果は、各地区委員に配布するほか、町ホームページでも公開する予定です。

なお、集計結果に記載された内容について、各自治会から問合せ等があった場合は、個別に紹介することがありますので、ご了承ください。

目　次

■　自治会について

１．加入世帯について　　Ｐ４～

問１－１	平成３０年３月１日現在の貴自治会の加入世帯数を記入してください。	Ｐ４
問１－２	貴自治会への未加入世帯数は、概ねどれくらいありますか。	Ｐ４

２．自治会加入について　　Ｐ７～

問２－１	自治会加入を呼びかける際や、加入率を上げるために、工夫していることは何ですか。	Ｐ７
問２－２	自治会に加入しない理由について、どんなことが考えられますか。 多いと思われるものを３つ選んでください。	Ｐ９

３．自治会費について　　Ｐ１０～

問３－１	自治会費は、１世帯あたり月額いくらですか。	Ｐ１０
問３－２	自治会費はどのように収集していますか。	Ｐ１２
問３－３	自治会活動の財源は何ですか。	Ｐ１３

４．自治会の活動について　　Ｐ１４～

問４－１	１年間に、自治会で行っている活動を教えてください。	Ｐ１４
問４－２	「問４－１」で答えた活動のうち、特に負担が大きい活動は何ですか。 また、その理由は何ですか。	Ｐ１７
問４－３	自治会として、現在力を入れている活動は何ですか。	Ｐ２０
問４－４	自治会として、今後力を入れて取り組みたい活動は何ですか。	Ｐ２１
問４－５	自治会活動の中で、現在どのようなことにお困りですか。	Ｐ２２
問４－６	「問４－５」において、特に深刻な問題は何ですか。	Ｐ２４
問４－７	自治会活動を活性化させるために、町からどのような支援が必要だと思われますか。	Ｐ２５

問４－８	自治会ごとの会議は、どれくらいの頻度で開催していますか。	Ｐ２７
問４－９	自治会ごとの会議には、誰が参加していますか。	Ｐ２８

５．連携する団体について　　Ｐ２９～

問５－１	現在、連携して事業を行っている団体はどこですか。	Ｐ２９
問５－２	他の団体と連携する場合、どのような効果が期待できますか。	Ｐ３０

■　地区委員の活動について　　Ｐ３１～

問１	地区委員になって、今年度で何年目ですか。	Ｐ３１
問２	地区委員は、毎年どのように決めますか。	Ｐ３２
問３	地区委員や役員の選出について、年齢の上限はありますか。	Ｐ３３
問４	地区委員や役員の引継ぎにおいて、工夫されていることはありますか。	Ｐ３４
問５	地区委員会の開催日は、いつが良いですか。また、その理由は何ですか。	Ｐ３５
問６	今年度、地区委員として活動をする中で、感じたことや思ったことなどをご自由に記入してください。	Ｐ３７

■　アンケート結果を踏まえて　　Ｐ４０～

■　自治会について

≪ 1. 加入世帯について ≫

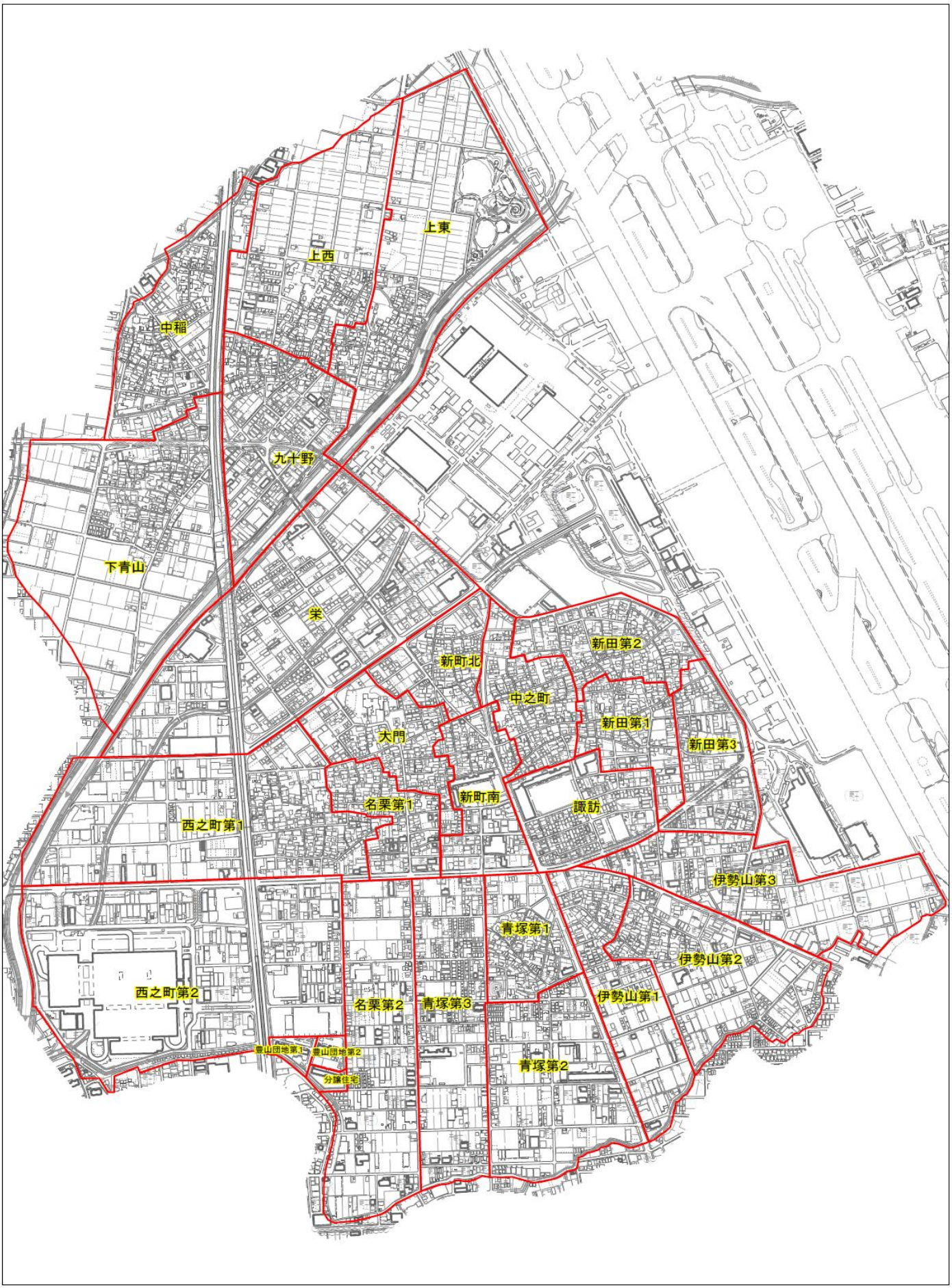
問１－１　平成３０年３月１日現在の貴自治会の加入世帯数を記入してください。
問１－２　貴自治会への未加入世帯数は、概ねどれくらいありますか。

番号	地　区　名	総世帯数	加入世帯数	加入率	自己認識
1	西之町第１	236 世帯	111 世帯	47.0%	半数程度が未加入
2	西之町第２	129 世帯	129 世帯	100.0%	ほとんどない
3	名栗第１	147 世帯	65 世帯	44.2%	半数程度が未加入
4	名栗第２	573 世帯	219 世帯	38.2%	半数程度が未加入
5	大門	193 世帯	112 世帯	58.0%	把握していない
6	青塚第１	141 世帯	80 世帯	56.7%	半数程度が未加入
7	青塚第２	535 世帯	287 世帯	53.6%	半数程度が未加入
8	青塚第３	487 世帯	340 世帯	69.8%	１～３割が未加入
9	伊勢山第１	197 世帯	84 世帯	42.6%	半数程度が未加入
10	伊勢山第２	347 世帯	161 世帯	46.4%	半数程度が未加入
11	伊勢山第３	275 世帯	122 世帯	44.4%	半数程度が未加入
12	諏訪	196 世帯	117 世帯	59.7%	半数程度が未加入
13	新町南	123 世帯	69 世帯	56.1%	半数程度が未加入
14	新町北	139 世帯	69 世帯	49.6%	１～３割が未加入
15	中之町	189 世帯	129 世帯	68.3%	１～３割が未加入
16	新田第１	176 世帯	89 世帯	50.6%	１～３割が未加入
17	新田第２	203 世帯	97 世帯	47.8%	未回答
18	新田第３	195 世帯	72 世帯	36.9%	その他 （６割強が未加入）
19	豊山団地１	90 世帯	87 世帯	96.7%	ほとんどない
20	豊山団地２	79 世帯	79 世帯	100.0%	ほとんどない
21	分譲住宅	123 世帯	123 世帯	100.0%	ほとんどない
22	栄	549 世帯	300 世帯	54.6%	半数程度が未加入
23	下青山	199 世帯	127 世帯	63.8%	半数程度が未加入
24	中稲	210 世帯	120 世帯	57.1%	１～３割が未加入
25	九十野	372 世帯	138 世帯	37.1%	把握していない
26	上西	266 世帯	132 世帯	49.6%	半数程度が未加入
27	上東	157 世帯	105 世帯	66.9%	１～３割が未加入
	合計	**6,526 世帯**	**3,628 世帯**	**55.6%**	

※地区割図は次ページを参照

H30. 3. 1 時点

豊山町地区割図


上東
上西
中稲
九十野
下青山
栄
新町北
新田第2
中之町
新田第1
新田第3
大門
新町南
名栗第1
諏訪
西之町第1
伊勢山第3
青塚第1
伊勢山第2
西之町第2
名栗第2
青塚第3
伊勢山第1
豊山団地第1
豊山団地第2
分譲住宅
青塚第2

◆考察

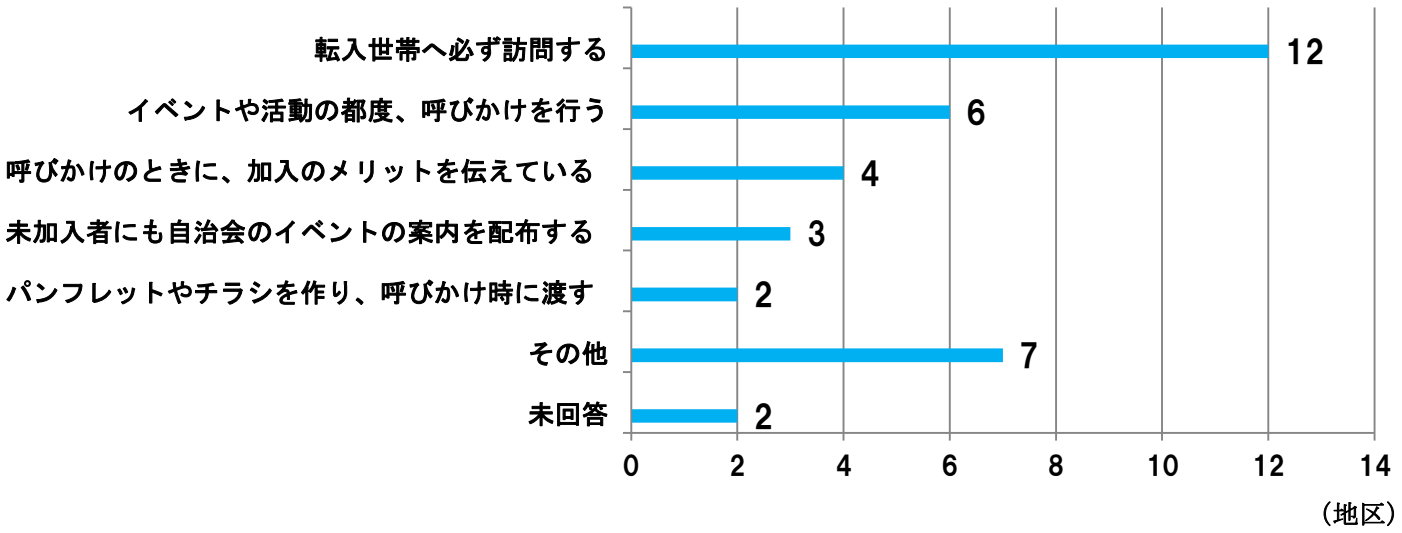
・自治会加入率は、地域によって差が大きい。

・豊山団地のように、共益費の中に自治会費が含まれているようなアパートは、加入率が高い。

・ほとんどの自治会において、実際の加入率と自己認識に大きな差は無く、加入率や加入世帯数を把握できている。

≪ 2. 自治会加入について ≫

問２－１　自治会加入を呼びかける際や、加入率を上げるために、工夫していることは何ですか。（複数回答可）



◆その他の意見

・加入申込書のコピーを地区の掲示板に貼っている。
・掲示板の活用・有効利用を考えなければならない。
・現在対策を考えている。「パンフレットやチラシを作り、呼びかけ時に渡す」「転入世帯へ必ず訪問する」「呼びかけのときに、加入のメリットを伝えている」の３点を中心にやっていく予定
・大家さんへのアプローチ
・パンフレット以外に自治会規約と自治会事業を書いたものを渡す。
・持ち家の転入世帯には声をかけているが、アパートやマンションの転入・転出世帯には転入や転出の状況がわからないので何もしていない。
・呼びかけのときに、加入のメリットを伝えているが、役員・組長になることが嫌だと言われる。

◆考察

・半数近くの自治会が、転入世帯を訪問して加入を呼びかけている。

・直接、自宅を訪問することで、お互い顔見知りになるきっかけとなっている。

・地区の掲示板に加入申込書を貼ることで、未加入者の目に留まりやすくなる。

・町民体育大会や秋の祭礼に限らず、自治会に加入するメリットを伝えることで、住民の理解が一層深まり、加入のきっかけとなっている。

　　例：災害時の対応、高齢者や子どもたちの地域での見守り

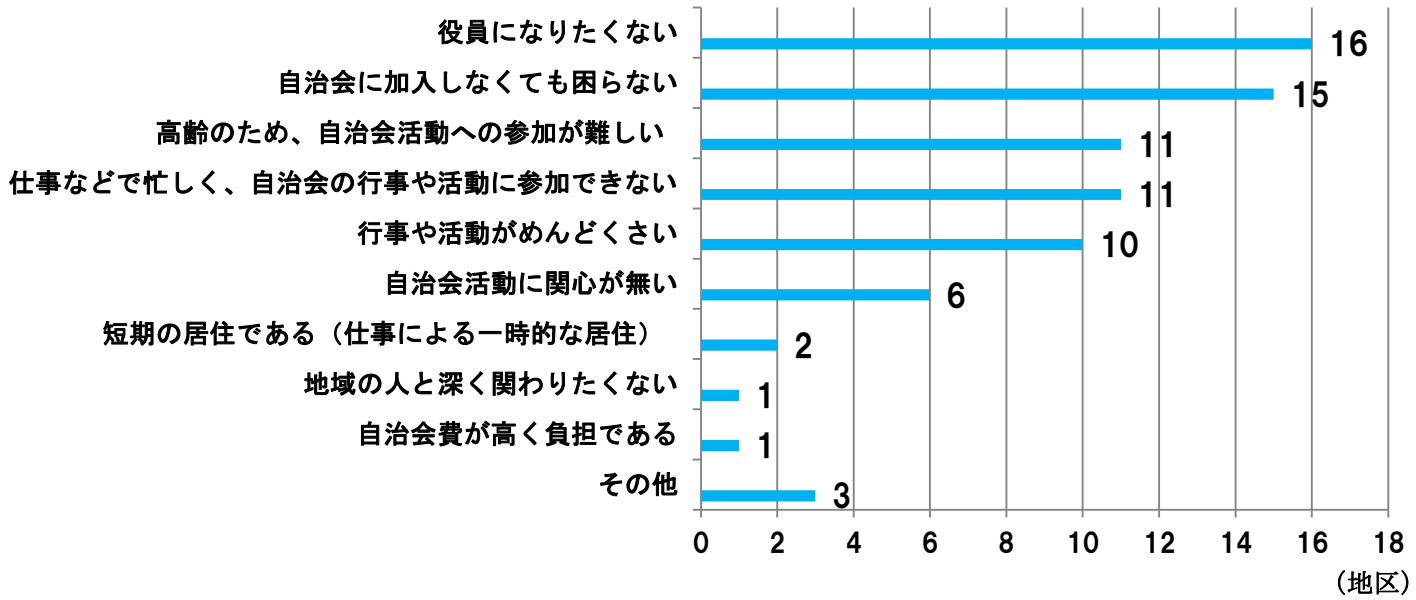
・アパートやマンションは短期入居者が多く、声を掛けにくい。

・役員になることに抵抗があることも、未加入の原因の１つと考えられる。

・加入率が高い自治会は、転入世帯への訪問時に加入のメリットを伝えたり、イベントの際に声かけを行うなどの工夫をすることで、加入につなげている。

・直接顔を合わせて話をした方が、活動への理解を得やすい傾向がある。

問２－２　自治会に加入しない理由について、どんなことが考えられますか。多いと思われるものを３つ選んでください。



◆その他の意見

・自治会に入るメリットがない。入っていなくても困らない。
・魅力ある活動がない。担い手がいない。
・昔は豊山町出身の職員が大勢いたため、相談に乗ってもらいやすかったが、町出身の職員が減ったことで、対応が冷たくなったと感じることも原因の１つだと思う。
・団地であり、全世帯加入している。

◆考察

・「役員になりたくない」「加入しなくても困らない」という声が多い。
・高齢になると、体力的な負担から退会してしまう人が増える傾向にある。
・自治会を退会してしまうと、地域とのつながりが薄くなり、孤立する原因になる。
・一方、働いている若い世代にとっては、平日の活動への参加が難しいことが、加入を断る原因となっている。
・高齢者や働いている世代が活動に参加しやすいように、活動内容や役割分担を見直すことで、活動の担い手を確保することができる。

≪ 3. 自治会費について ≫

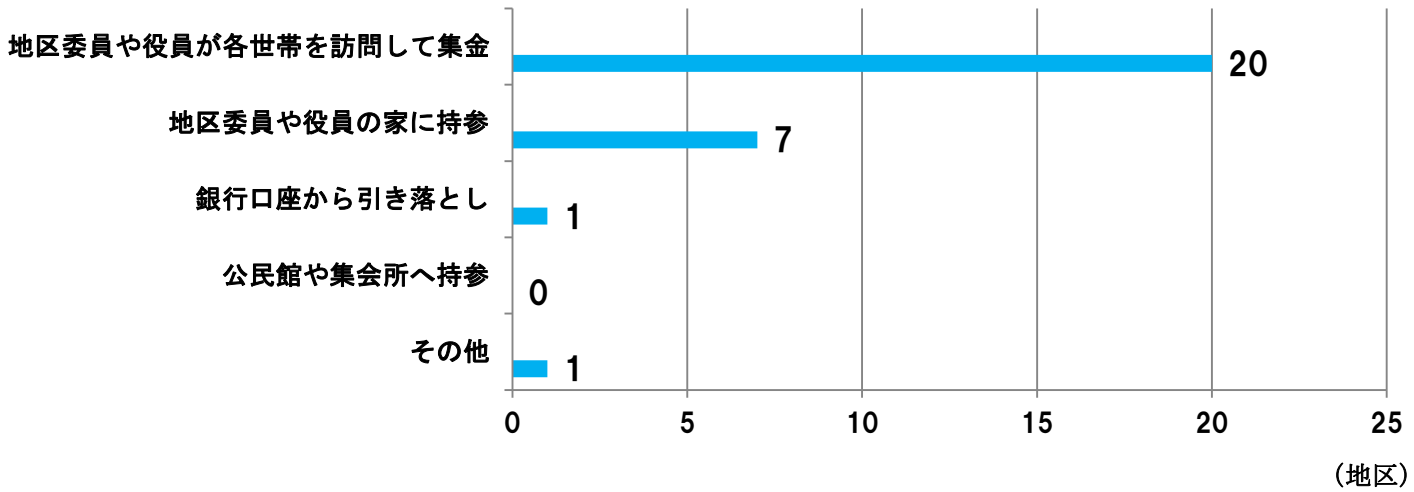
問３－１　自治会費は、１世帯あたり月額いくらですか。

番号	地区名	月額	年額	備考
1	西之町第１	167 円	2,000 円	
2	西之町第２	200 円	2,400 円	
3	名栗第１	250 円	3,000 円	
4	名栗第２	200 円	2,400 円	
5	大門	200 円	2,400 円	
6	青塚第１	100 円	1,200 円	
7	青塚第２	200 円	2,400 円	
8	青塚第３	100 円	1,200 円	
9	伊勢山第１	167 円	2,000 円	
10	伊勢山第２	167 円	2,000 円	
11	伊勢山第３	167 円	2,000 円	
12	諏訪	300 円	3,600 円	
13	新町南	200 円	2,400 円	
14	新町北	200 円	2,400 円	
15	中之町	200 円	2,400 円	
16	新田第１	200 円	2,400 円	
17	新田第２	200 円	2,400 円	
18	新田第３	200 円	2,400 円	
19	豊山団地１			共益費 3,000 円
20	豊山団地２	167 円	2,000 円	
21	分譲住宅			共益費 4,000 円
22	栄	125 円	1,500 円	
23	下青山	100 円	1,200 円	
24	中稲	250 円	3,000 円	
25	九十野	250 円	3,000 円	
26	上西	83 円	1,000 円	＋入会金 3,000 円
27	上東	83 円	1,000 円	＋入会金 3,000 円

◆考察

・自治会費の平均金額は、月額１７４円（年額２，０９２円）である。
・最も高い自治会は、月額３００円（年額３，６００円）である。
・最も安い自治会は、月額８３円（年額１，０００円）である。
・定期的に集める自治会費とは別に、入会金が必要な自治会がある。
・自治会費が高くても、自治会加入率が低いとは限らないことから、一概に、自治会費の金額と加入率に関係があるとは言えない。

問３－２　自治会費はどのように収集していますか（複数回答可）



◆その他の意見

・上期と下期に分けて、それぞれ１世帯あたり１，０００円を集めている。
（年額は２，０００円）

・組長が各戸を訪問し、役員（会計）が集約する。

・半期ごとに集金している。

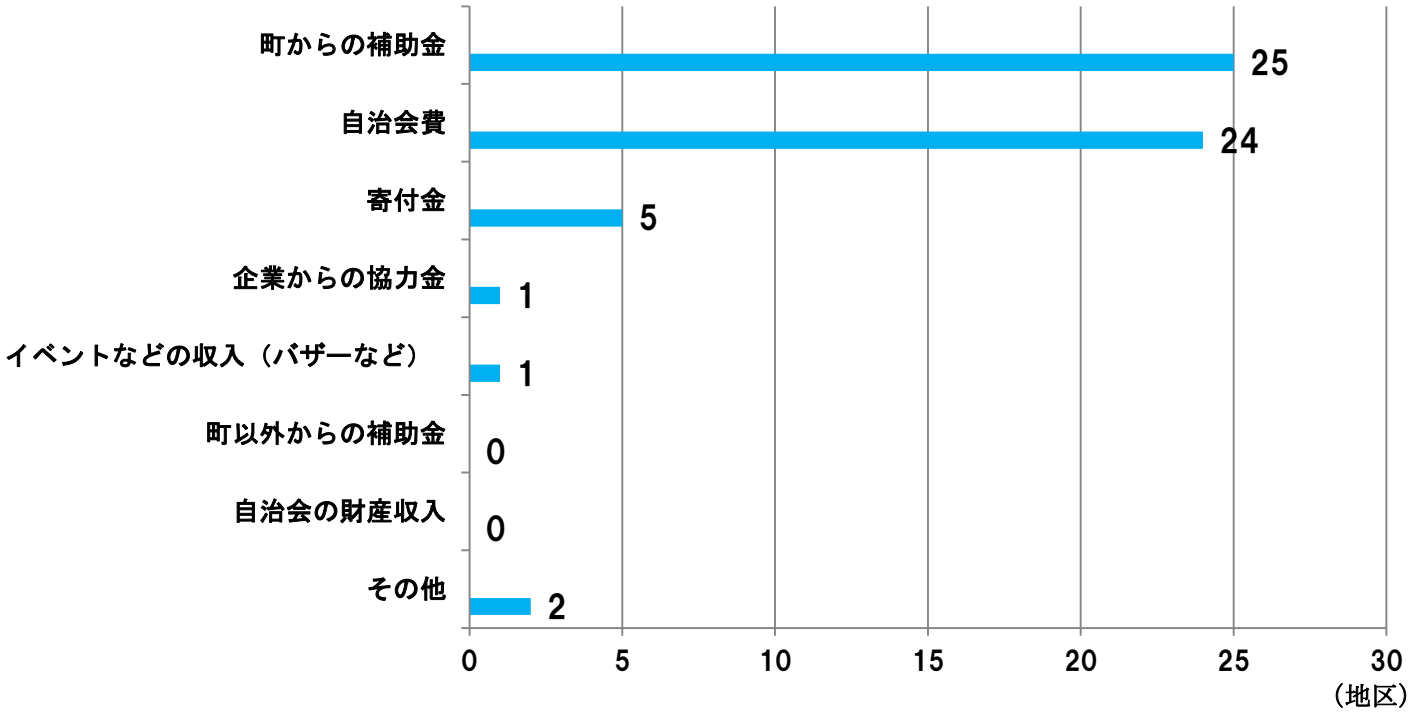
◆考察

・加入者の負担にならないよう、多くの自治会で、地区委員や役員が各世帯を訪問して集金を行っている。

・集金による定期的な訪問が、交流のきっかけとなっている。また、交流が生まれ、近所の方と顔見知りになることで、高齢者の孤立を防いだり、地域における子どもの見守りにつながっている。

・各世帯から集金する自治会費の使途を明確にすることで、自治会費を適正に管理でき、無駄な経費を削減することができる。

問３－３　自治会活動の財源は何ですか。（複数回答可）



◆その他の意見

・秋の祭礼のお供え

・寄付金＝祭礼時の御供金

・資源ごみの奨励金

◆考察

・多くの自治会が、町からの補助金や各世帯から集金する自治会費で、活動費用をまかなっている。

・バザーの収入や企業からの協力金を活用することも、財源の確保のために効果的である。

≪4. 自治会の活動について≫

問４－１　１年間に、自治会で行っている活動を教えてください。

※全２７地区のうち、３地区を抜粋
※アンケートに基づいて記載しています。

【地区１】

通年	①資源分別収集・監視、②古紙等収集・監視
４月	①自治会役員引継会、②第１回地区委員会 ③日赤社資募集地区委員依頼説明会、④第１回地区福祉委員会 ⑤豊山小学校区自主防災総会、⑥自治会役員会 ⑦八所神社宮系予算審議会、⑧春の清掃活動 ⑨自治会費及び赤十字社費の集金
５月	自治会役員会
６月	①豊山小学校区自主防災訓練、②児童遊園環境整備・消火訓練 ③第２回地区福祉委員会
７月	地区委員・体育委員打合せ会
８月	自治会役員会（体育大会選手募集）
９月	①町防災訓練、②八所神社秋の祭礼行事連絡協議会 ③児童遊園環境整備、④自治会役員会（秋の祭礼）、 ⑤第３回地区福祉委員会（共同募金）
１０月	①町民体育大会、②秋の祭礼
１１月	
１２月	
１月	八所神社宮系決算報告会
２月	自治会役員会（総会運営）
３月	自治会総会

【地区２】

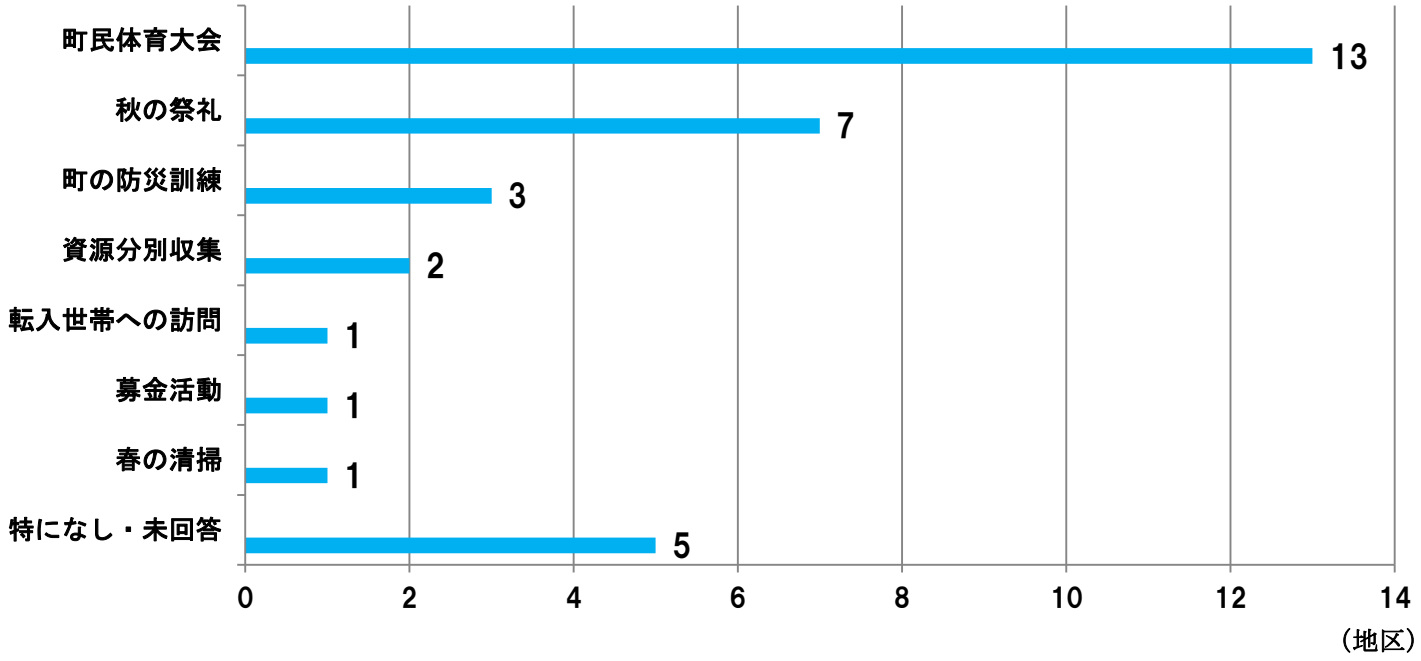
※平成２９年度に実施した活動

通年	資源ごみ回収
４月	春の清掃活動
５月	新栄小学校区自主防災訓練
６月	日本赤十字社募金活動
７月	社会福祉協議会募金活動
８月	獣捕獲の実施（８～９月）
９月	①町防災訓練、②公民館下水道接続
１０月	①町民体育大会、②共同募金募集活動（赤い羽根） ③秋祭りの参加
１１月	
１２月	公民館の改修
１月	公民館に時計を設置
２月	町長との対話集会
３月	①自治会全体会議（自治会・実行組合等） ②自治会・実行組合引継会

【地区３】

通年	①資源分別収集、②津島神社の清掃（月１回） ③防犯灯、交通安全灯の球切れ通報の依頼
４月	①組長連絡会議、②八所神社行事計画・予算審議会 ③津島神社行事計画、④３町協議会 ⑤春の清掃活動、⑥生活排水路の消毒薬剤配布、⑦第１回地区委員会
５月	①八所神社奉賛金前期分支払い、②各種団体クラブ助成金支払い ③町費前期分徴収、④日本赤十字社資募集 ⑤豊山小学校区自主防災会幹事会
６月	豊山小学校区自主防災訓練
７月	①津島神社３町分お礼受け、②津島神社天王祭り献灯・ご祈祷 ③防疫用殺虫剤の配布（７～８月） ④豊山町社会福祉協議会会員募集
８月	組長会議（体育大会の取りまとめ、体育委員・子ども会合同）
９月	①津島神社天王祭り・提灯献灯、②八所神社奉賛金後期分支払い ③秋の祭礼行事打合せ、④秋祭り用具土用干し ⑤組長会議（体育大会・秋の祭礼の運営について、体育委員・子ども会合同）、⑥津島神社天王祭り・提灯献灯、⑦町防災訓練
１０月	①町民体育大会、②秋の祭礼 ③赤い羽根共同募金、④豊山町表彰式
１１月	町費後期分徴収
１２月	①津島神社境内清掃、②借地料支払い
１月	①ご祈祷、②津島神社境内清掃、③防火水槽借地料補助金申請
２月	①尾張大国霊神社（国府宮）お礼受け ②津島神社境内清掃
３月	①自治会役員会、②自治会総会、③自治会引継ぎ ④津島神社境内清掃

問４－２　「問４－１」で答えた活動のうち、特に負担が大きい活動は何ですか。また、その理由は何ですか。



◆町民体育大会

【参加者集め】

・選手集めに非常に苦労する。
・メンバー集めが大変
・加入者の高齢化により、年々病気や障がいの発症者が増える。
・若い世帯の加入率低下や転出など、種目の制約が増える。
・地区対抗リレーの参加者を集めるのが大変
・人がいない。
・メンバー集め
・競技選手を集めるための人選
・高齢者が多く、児童が少ないため、種目に参加できない。
・参加者が集まらないため、ほとんど組長等で参加している。
・種目別の割振り

【準備・後片付け】

・秋の祭礼と時期が重なるため、準備が大変
・弁当や飲み物の手配
・１カ月前からの準備が大変

・体育大会と祭礼の時期が重なるため、準備が大変
・１日がかりのイベントなので、組長が高齢だと体力的な負担が大きい。
・参加は申込制の形を取っているが、絞り込みの目途が立たないことから、常にフル参加になってしまう（動員）。
・選手の選出や弁当などの準備。テント張りなどの準備があり、負担が大きい。
・準備が大変である。
・食事・飲料などの準備
・会場の設営、参加賞等の準備
・当日の準備、後片付け

◆秋の祭礼

・公民館の飾り付け、神輿の準備、後片付け。はっぴの配布と回収
・事前の準備（社の清掃、はっぴの仕分け）が大変
・当日の供物の取扱い、お返しの配布等。反省会もあり、早朝から夜までかかる。
・１カ月前からの準備が大変
・体育大会と祭礼の時期が重なるため、準備が大変
・１日がかりのイベントなので、組長が高齢だと体力的な負担が大きい。
・準備が大変である。
・準備作業が大変で、５月頃から各方面に動きまわっている。

◆町の防災訓練

・地区で５人集められない。あまりにも防災意識が低く、誰かがやるだろうなどと甘い考えを持つ人が多いためであると思われる。
・軽可搬式消防ポンプを使用して訓練に参加するが、このポンプで消火することは現実的でないし、次年度からは不参加としたい。
ただ、維持管理の一環として試運転は必要だと思う。
・防災訓練に出る回数が多い。

◆資源分別収集

・現役世代にとって、仕事を休まなければならない。
・退職した人にとって、年齢が上になると、過重な仕事になる。
・雨天や雪の場合
・夜８時過ぎまで当番があり、その後に道具の後片付けがあるため。

◆春の清掃

・高齢の方は体力的に大変そう。

◆募金活動

・社会福祉協議会、日本赤十字社、赤い羽根共同募金は、趣旨が同じような募金を別々に実施している。

・集金時に留守の場合、何度も訪問しなければならず、１回でできるような形にしてほしい。

◆加入啓発

・マンションに住んでいる方に対して、個別で伝達や手続きを行っているため大変である。

・留守の家が多いため、転入世帯への訪問が大変

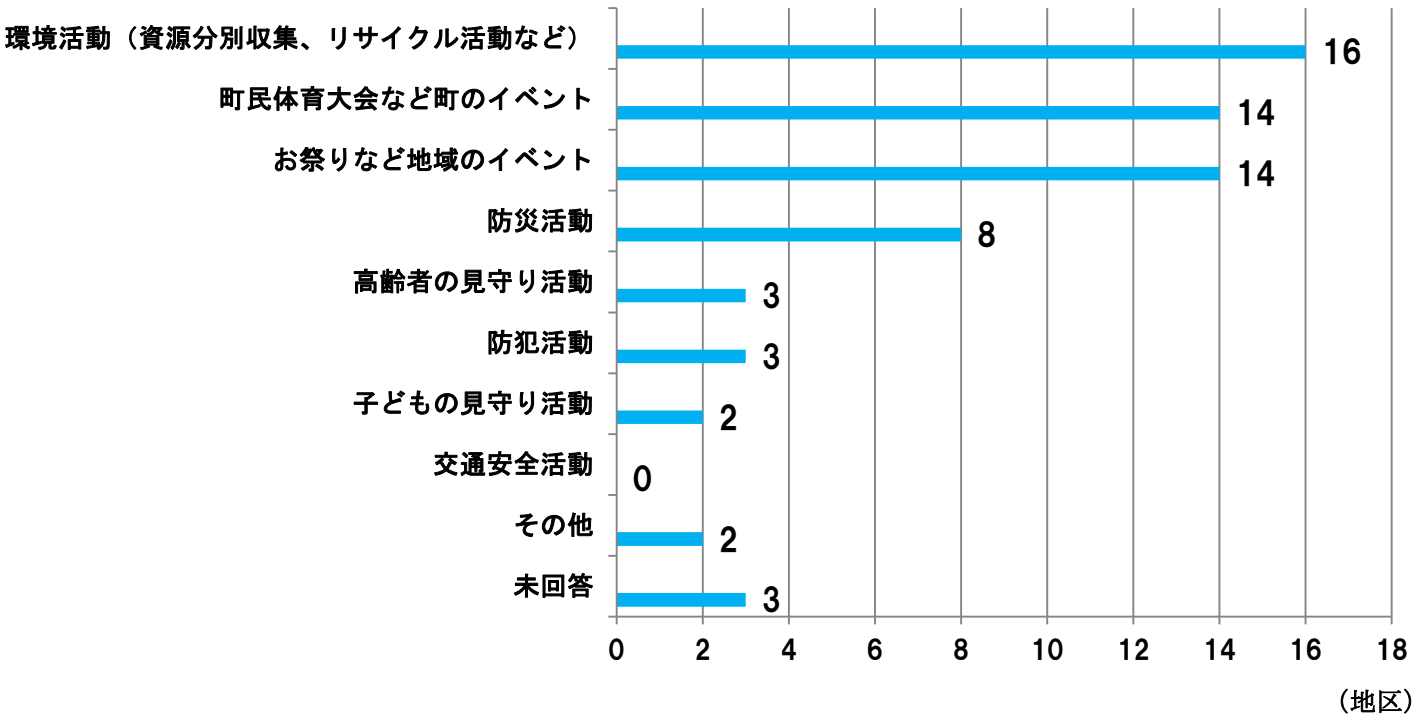
◆考察（問４－１，問４－２）

・４月から１０月にかけて、行事が集中している。

・特に９月と１０月は、町防災訓練・町民体育大会・秋の祭礼の３つの行事が重なってしまう。どの行事も、事前の打ち合わせや準備に時間を要することから、負担が大きいと感じる地区委員や役員が多い。

・加入者や役員の高齢化により、参加者集めや準備・片付けが大きな負担となっている。

問４－３　自治会として、現在力を入れている活動は何ですか。（複数回答可）



◆その他の意見

・子ども会、お囃子、体育部に対してのクラブ・団体助成

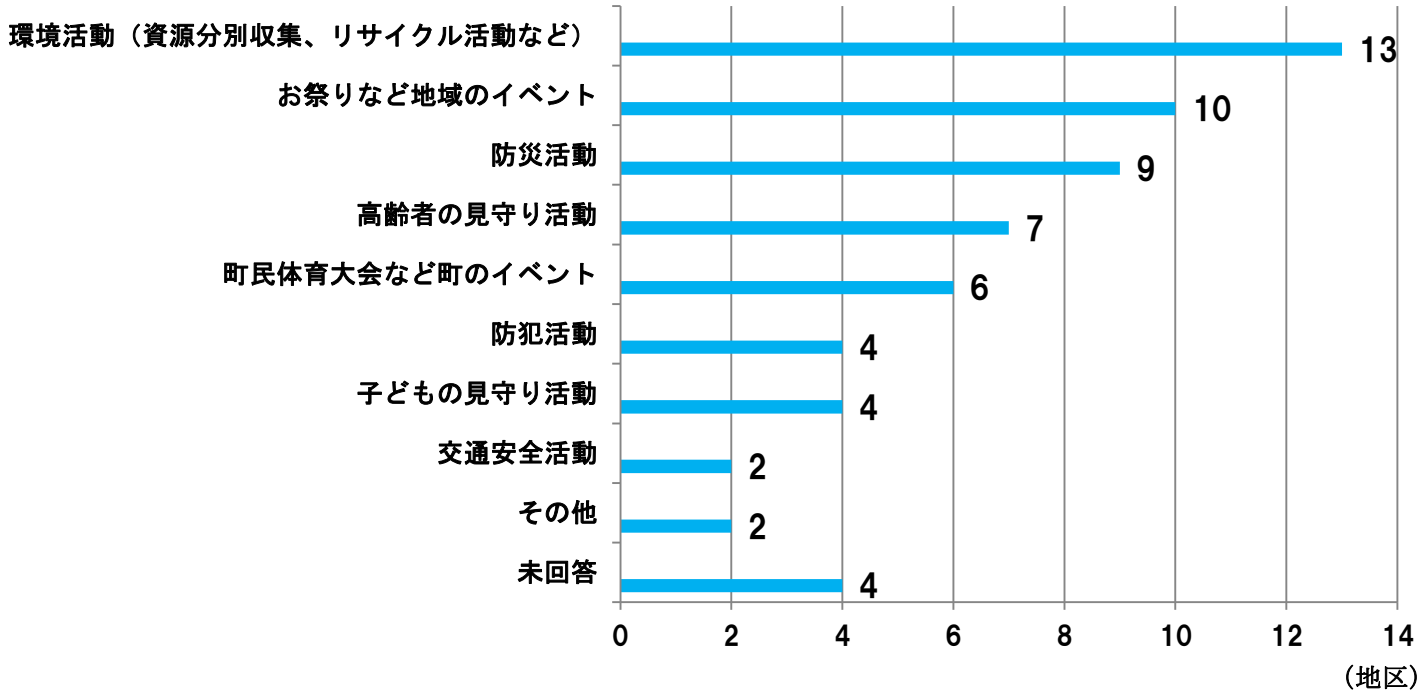
・次期役員探し

◆考察

・半数以上の自治会が、資源分別収集などの環境活動やイベントに力を入れている。

・反対に、防災活動や見守り活動に力を入れている自治会は少ない。

問４－４　自治会として、今後力を入れて取り組みたい活動は何ですか。（複数回答可）



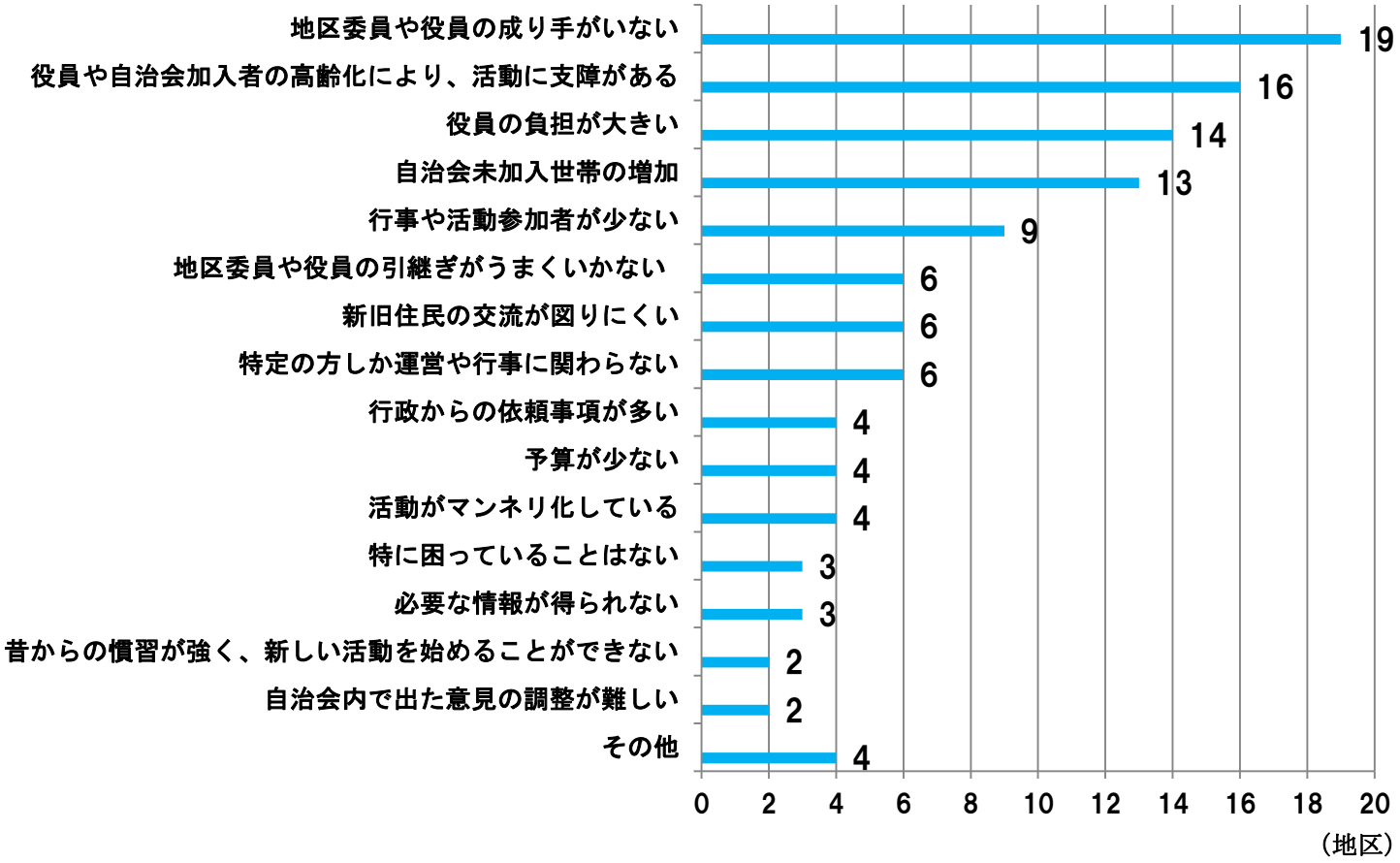
◆その他の意見

・自治会加入促進
・住民の交流
・防犯、防災、交通安全活動などの活動団体との情報共有
・町民体育大会や各種要請活動のスリム化
・各種要請活動のスリム化と、防犯・防災・交通安全活動など活動母体のある団体との情報共有

◆考察

・現在、防災活動や見守り活動に力を入れている自治会は少ないが、今後、取り組んでいきたいと考えている自治会が多い。
・昨今、地震や水害などの自然災害が各地で発生していることから、防災活動に強い関心を持っている自治会が多い。また、高齢者や子供の見守り活動への関心が高まっている。
・防災・防犯活動などの「共助」としての地区の役割をより強化していくことで、いざというときにお互いに助け合うことができ、自分や周りの人の命を救うことにつながる。

問４－５　自治会活動の中で、現在どのようなことにお困りですか。（複数回答可）



◆その他の意見

【役員の成り手不足】

・高齢世帯が固定化する中で、未加入世帯が増大しており、要請活動における未加入世帯へのアプローチについて、要請団体の努力が見えないことなどで、自治会側に負担感が増大して、役員の成り手が減少していること。

【加入の呼び掛け】

・マンションを経営している家主の方と話し合い、マンションの住人にも今後自治会加入を呼びかけていく方針とのこと。少子高齢化で、組の統廃合の危機に直面しているため。

・自治会に入るメリットがない。入っていなくても困らない。

【自治会内でのやり取り】

・（必要な情報が得られないことに対して）年寄の人たちとの深い対立となりうる。
・広報で自治会加入率を載せないでほしい。
・（新旧住民の交流が図りにくいことに対して）現状、地元民とそこそこいる人の対立は激しい。昭和時代（昭和４７～６０年あたり）の時期にまずいことが多くあるので、難しい。

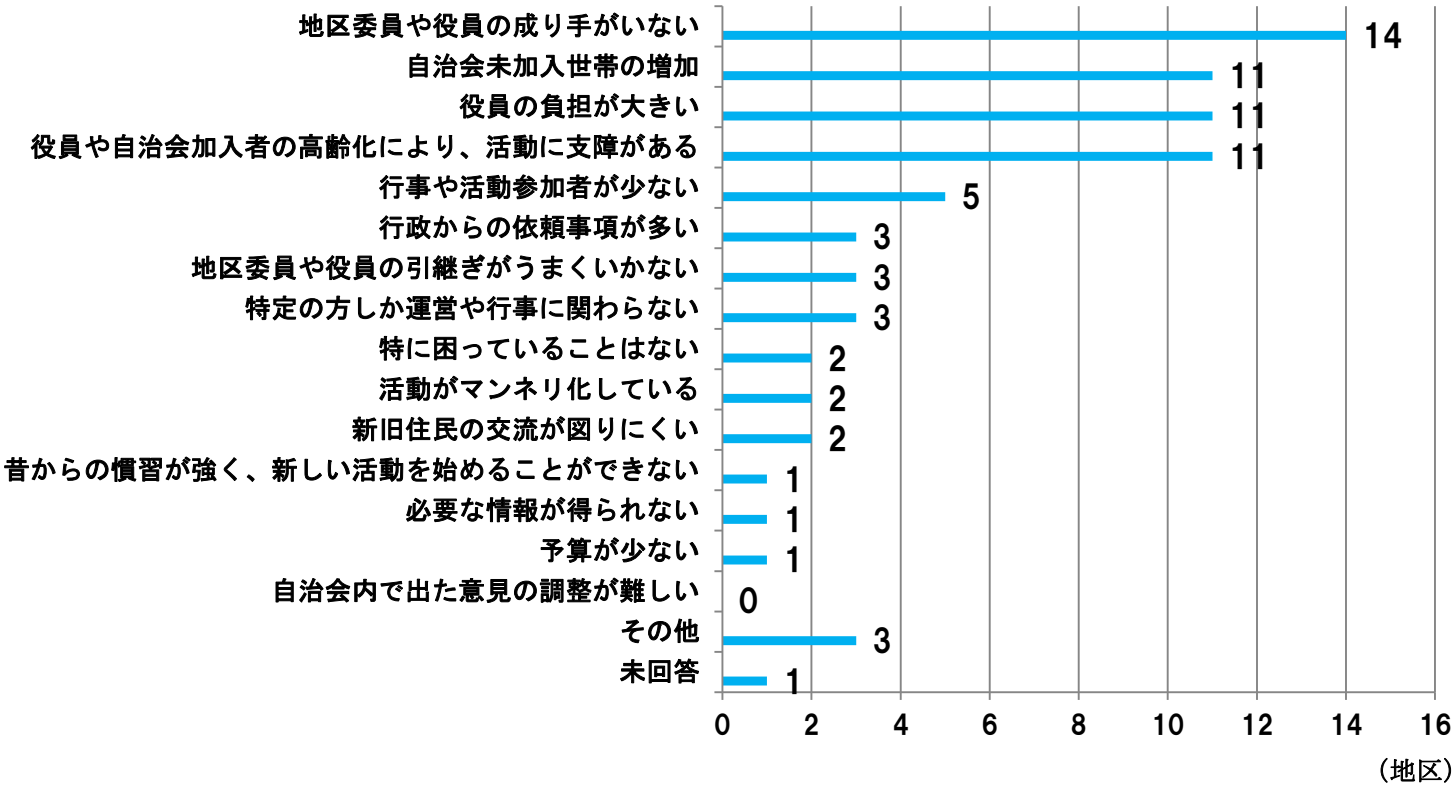
【業務の負担】

・役場からの業務以外に、体育協会から自治会に案内が来る。
・母子ソフト、三世代ゲートボール大会など、自治会内で選手集めができない。町全体としても参加チームは少ない。今後の検討課題である。
・自治会費を払わない人がいるので、何回も訪問してもらっている。

【その他】

・自治会の新規活動は考えていない。

問４－６　「問４－５」において、特に深刻な問題は何ですか。
３つ選んで記号を記入してください。



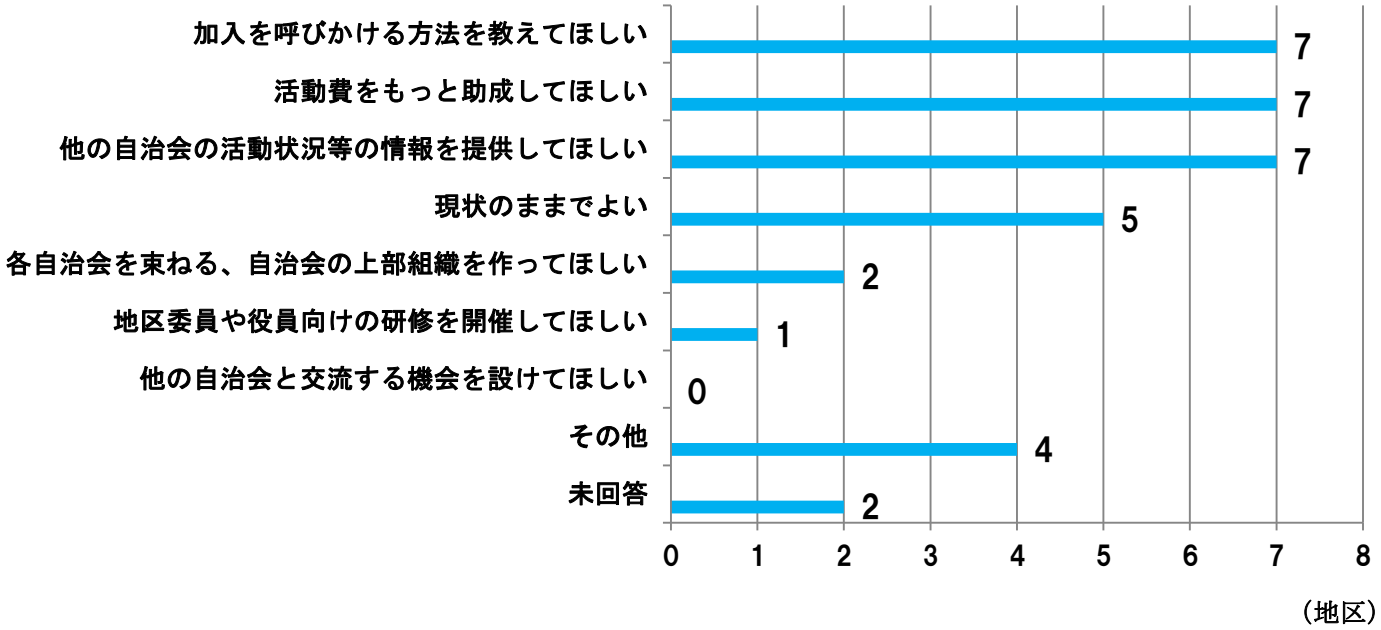
◆その他の意見

・新しい世帯には、子どもがいるにも関わらず、自治会への加入が無い。
・町民体育大会での選手集め（少子高齢化）
・資源ごみ回収担当者の高齢化
・自治会に入るメリットがない。入っていなくても困らない。

◆考察（問４－５，問４－６）

・「特に困っていることはない」と答えた自治会がある一方、多くの自治会が役員の成り手不足や未加入世帯の増加に悩んでいる。
・また、各自治会が抱える課題は、他の自治会と共通する内容も多い。

問４－７　自治会活動を活性化させるために、町からどのような支援が必要だと思われますか。（複数回答可）



◆その他の意見

【加入促進】

・今までに無い加入のメリットを作り出してほしい。
町として自治会が必要ならば、町も自治会に入りたくなるように仕向ける努力をする必要がある。

・町行政の一部を自治会に委ねているため、新規転入者に対し、役場からの自治会参加を積極的に進めてほしい。

・しっかりと加入してもらう仕組みづくりをしてほしい。これでは災害を乗り切れないと思う。

【地域との連携】

・日程を決めて、町長・副町長対各町内の住民で、供用施設を使って対話集会を行ってはどうか。テーマは、防災や各地区の現状について、など。

【業務内容の整理】

・地区委員、自治会へは、町以外に体育協会、社会福祉協議会、日赤、八所神社等外部団体とのつながりも多い。町とは直接関係ないと思うが、総務課で一度整理し、地区委員への案内としてまとめてほしい。

【地域づくり】

・支援というよりも、住民同士顔の見える交流を地域で根付かせる誘導策が必要
（住民側に、魅力のある活動の情報紹介と担い手策）

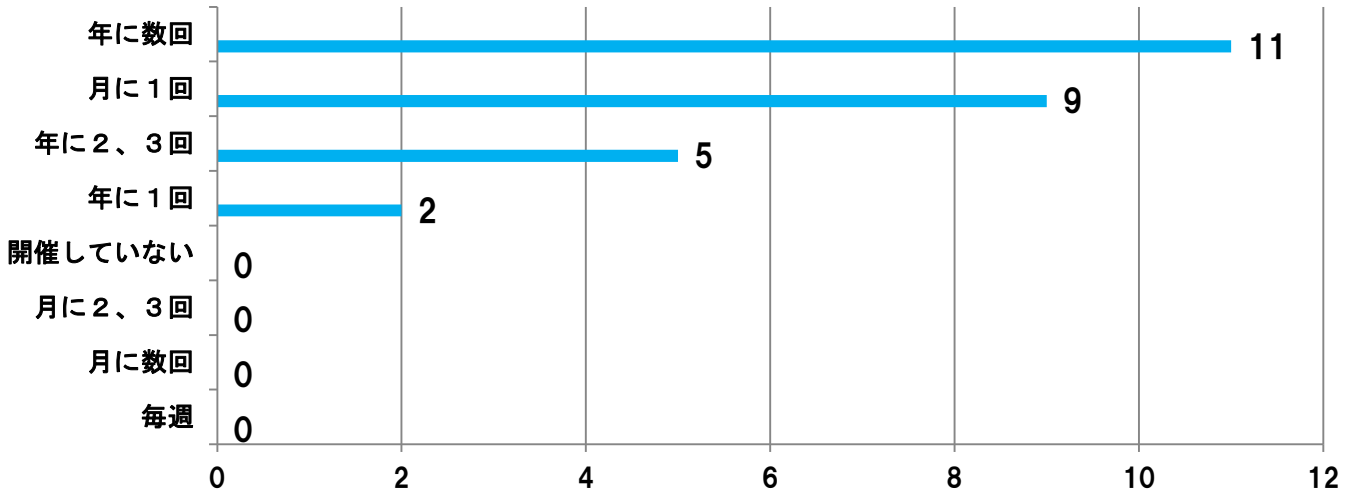
◆考察

・加入を呼びかける方法やメリットがわからず、対応に悩む自治会が多い。

・他の自治会の情報提供を望む声が多いことから、多くの人が他の自治会の活動や運営方法などに関心を持っている。

・町では、自治会への加入を啓発するために、転入者に案内チラシを配布したり（平成３０年度から内容を刷新）、広報に加入を呼びかける記事を載せているが、それ以外にも町の支援を望む声が多い。

問４－８　自治会ごとの会議は、どれくらいの頻度で開催していますか。



（地区）

◆その他の意見

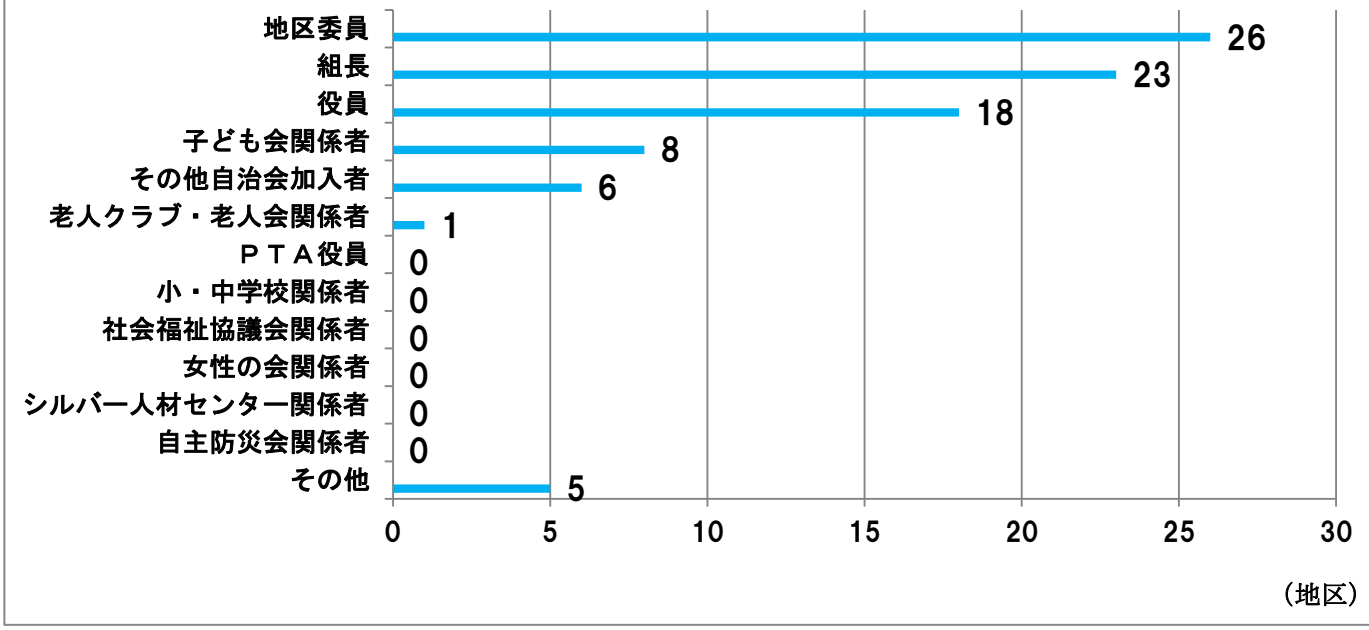
・年に８回ほど開催している。

◆考察

・年に数回から月に１回の頻度で、会議を開催する自治会がほとんどである。

・定期的に集まることで、地域の課題を共有したり、交流するきっかけとなる。

問４－９　自治会ごとの会議には、誰が参加していますか。（複数回答可）



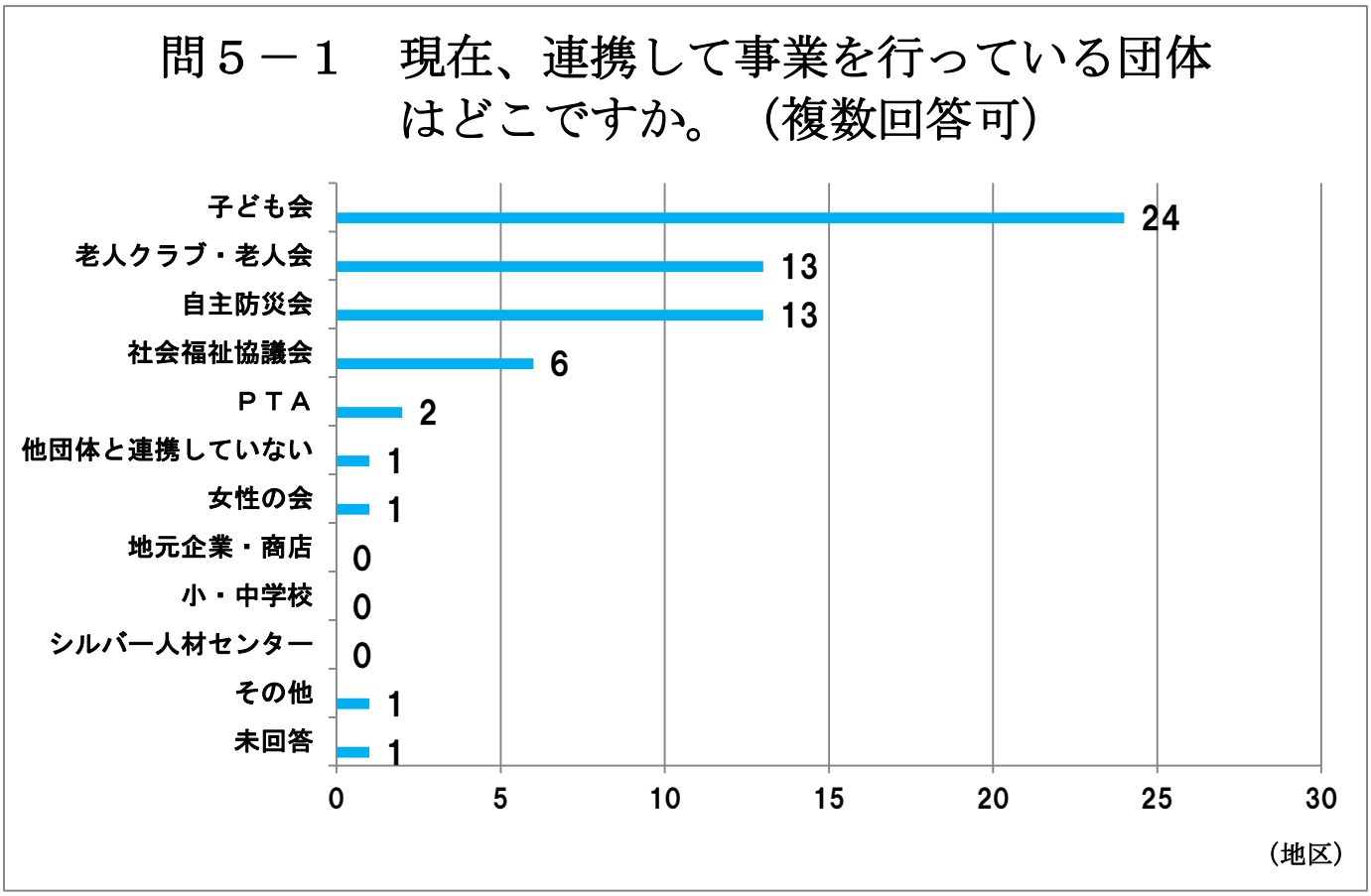
◆その他の意見

・体育委員
・前年度の役員２名以上
・テーマによって、地元神社氏子代表者が参加
・町民体育大会は、子ども会関係者を集めて実施

◆考察

・会議には、地区委員以外に役員や組長が参加する自治会が多い。
・役員だけでなく、自治会加入者も会議に参加すると、より多くの人に地域の活動を知ってもらう機会となり、活動に興味を持ちやすくなる。
・現在加入している世代だけでなく、若い世代でも会議に参加でき、発言しやすい雰囲気をつくることで、これまでとは違った視点からの意見が生まれ、新しい取組を行うきっかけとなる。

≪ 5. 連携する団体について ≫



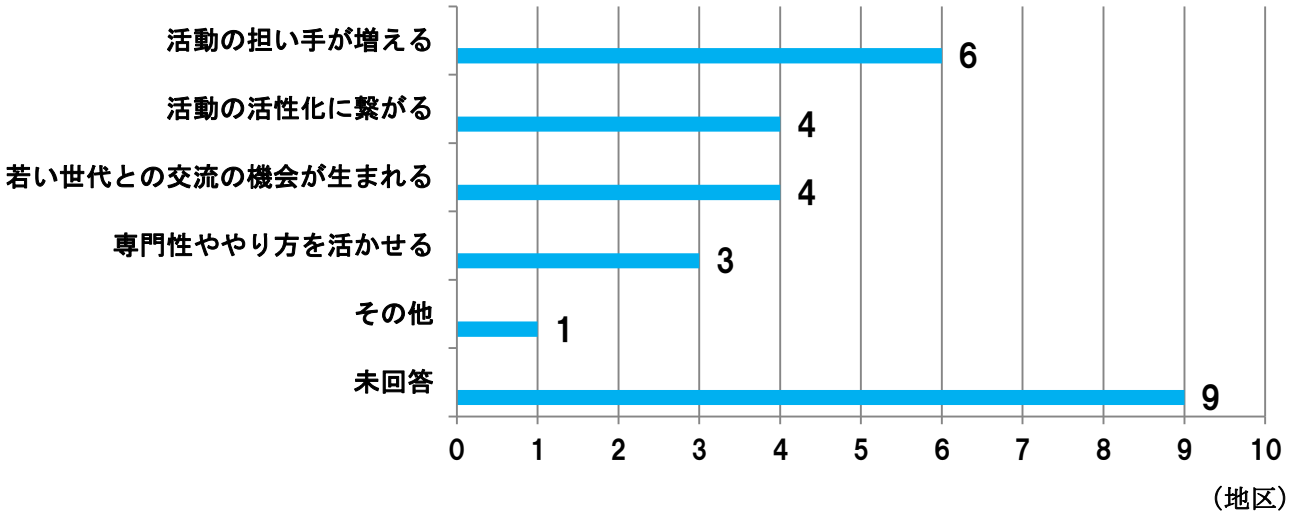
◆その他の意見

・（子ども会）自治会から毎年多額の活動費を渡しているため、自治会の下部組織という位置付けになっている。
・お囃子
・体育部
・地元神社年行司
・（自主防災会）連携ではなく、強制で参加している。

◆考察

・子ども会と連携して活動をしている自治会が多い。
・子ども会と連携することで、子どもとその親が活動に参加するきっかけとなる。
・子どもが卒業しても自治会から退会しないように、若い世代をつなぎとめることができれば、将来的な活動の担い手の確保につながる。
・老人クラブと連携することで、若い世代が活動できない日中の活動において、協力し合うことができる。

問５－２　他の団体と連携する場合、どのような効果が期待できますか。

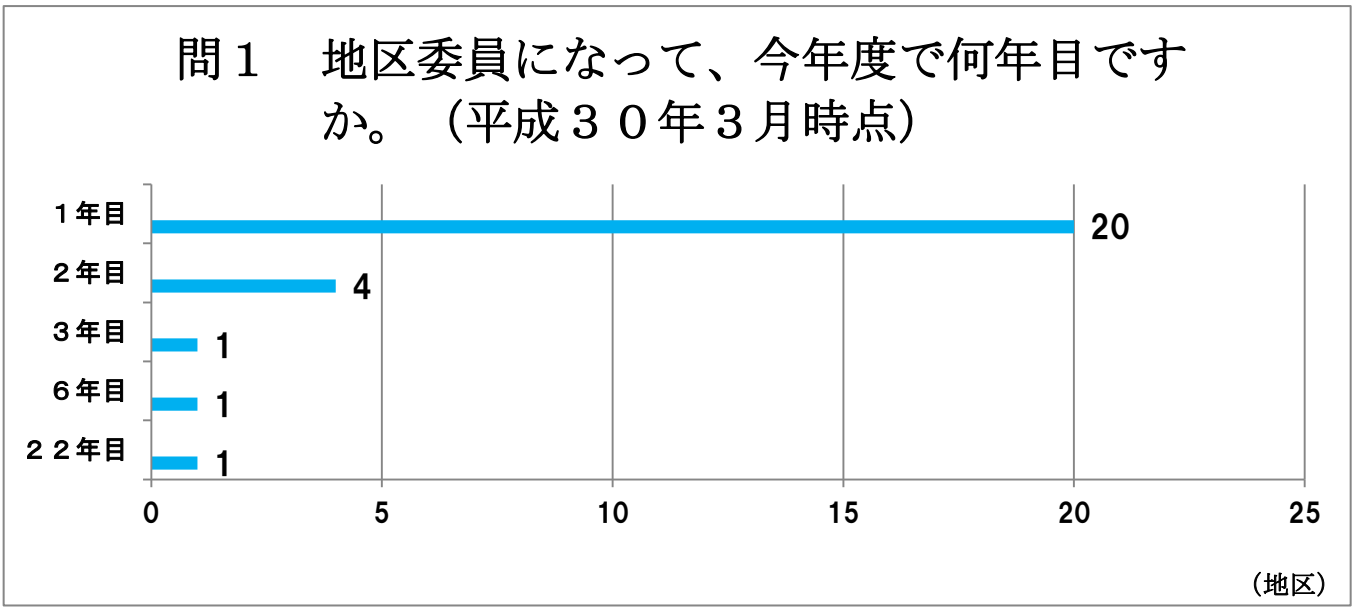


◆考察

・他団体と連携して活動を行うことで、役員や加入者の負担を減らせるだけでなく、様々な世代との交流を図ることができる。

・また、他団体との連携や交流により、新しい活動を始めることができるなど、地域の活性化にもつながる。

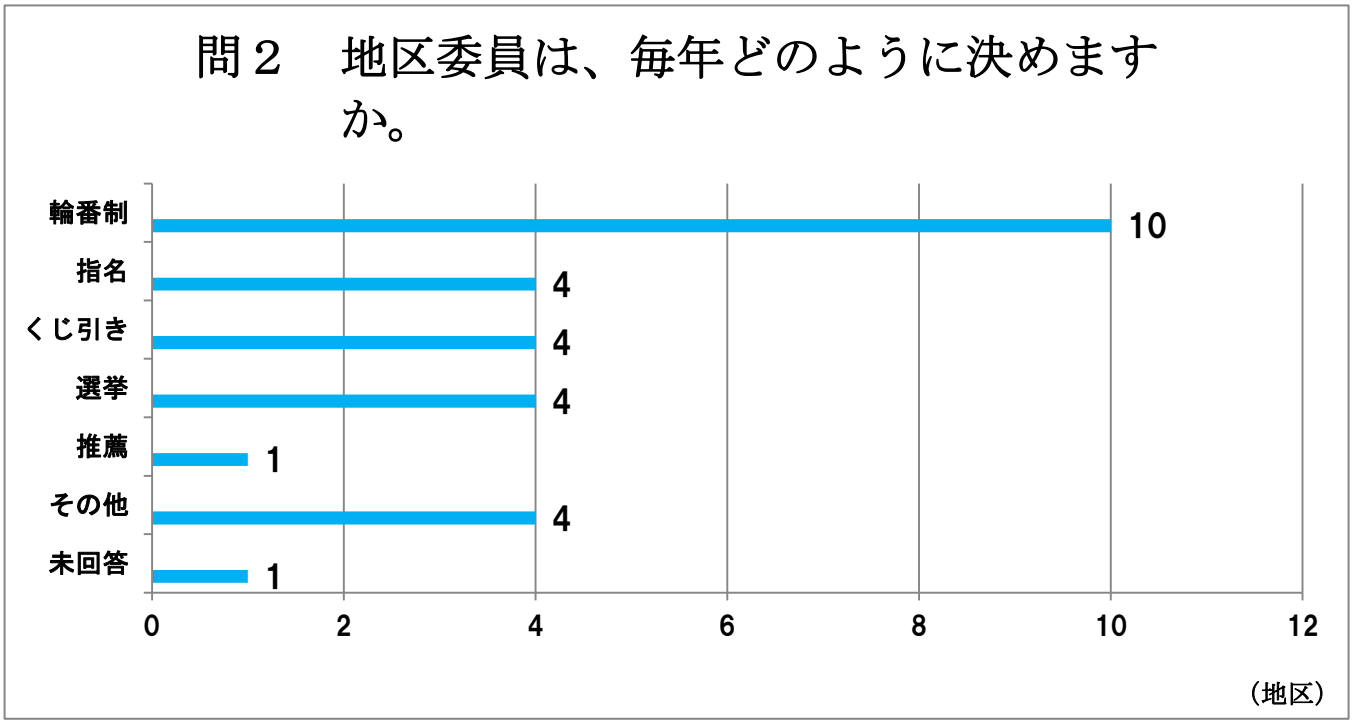
■　地区委員の活動について



◆考察

・地区委員を１年で交代する自治会が多い。

・１年で交代することで、成り手が見つかりやすいというメリットがある一方、新しい活動を始めたり、業務内容の見直しが難しいというデメリットもある。



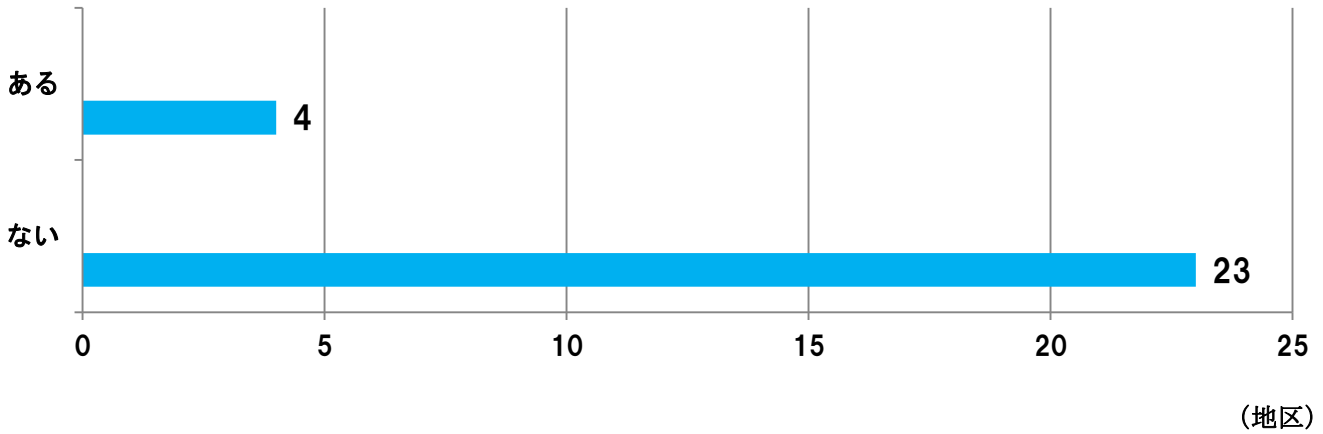
◆その他の意見

・年齢で決める。
・年齢順を基本に選挙（名目上）
・候補者を選び、直接交渉する。
・話し合い
・組ごとに決め方が定まっていないので、選任方法が違う。

◆考察

・多くの自治会で、輪番制を採用し、順番に地区委員の成り手を決めていることから、意欲的に地区委員を引き受ける人は、少ない傾向にある。
・輪番制やくじ引きで決めなければ、地区委員や役員の成り手がいない反面、輪番制があることで、自治会への加入を拒む人もいる。

問３　地区委員や役員の選出について、年齢の上限はありますか。



◆「ある」と答えた自治会

・７０歳まで（３地区）７５歳まで（１地区）

◆その他の意見

・上限は無いが、７０歳までが目安（暗黙の了解）

・過去に地区委員をした方は、基本的には選ばなかったが、近年は再度お願いしている。

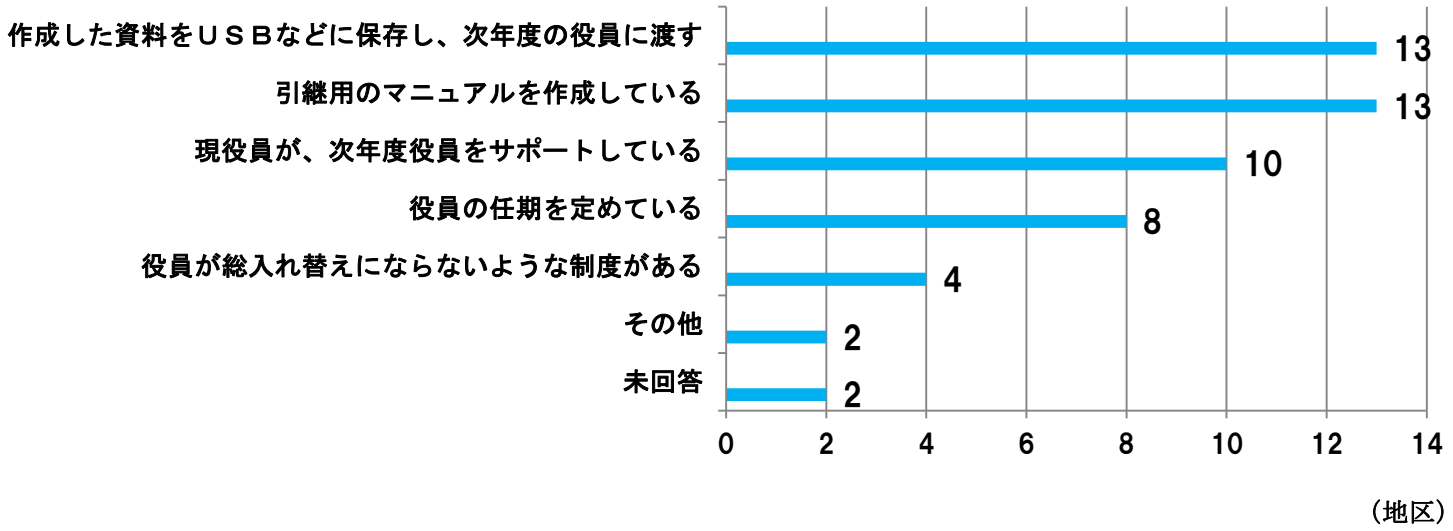
◆考察

・年齢の上限がはっきりと決まっている自治会は少ない。

・ただ、年齢制限はなくとも、概ね７０歳未満の人から選出する傾向がある。

・過去に地区委員を経験された方に再度お願いする地区もあり、担い手の確保が難しい。

問４　地区委員や役員の引継ぎにおいて、工夫されていることはありますか。



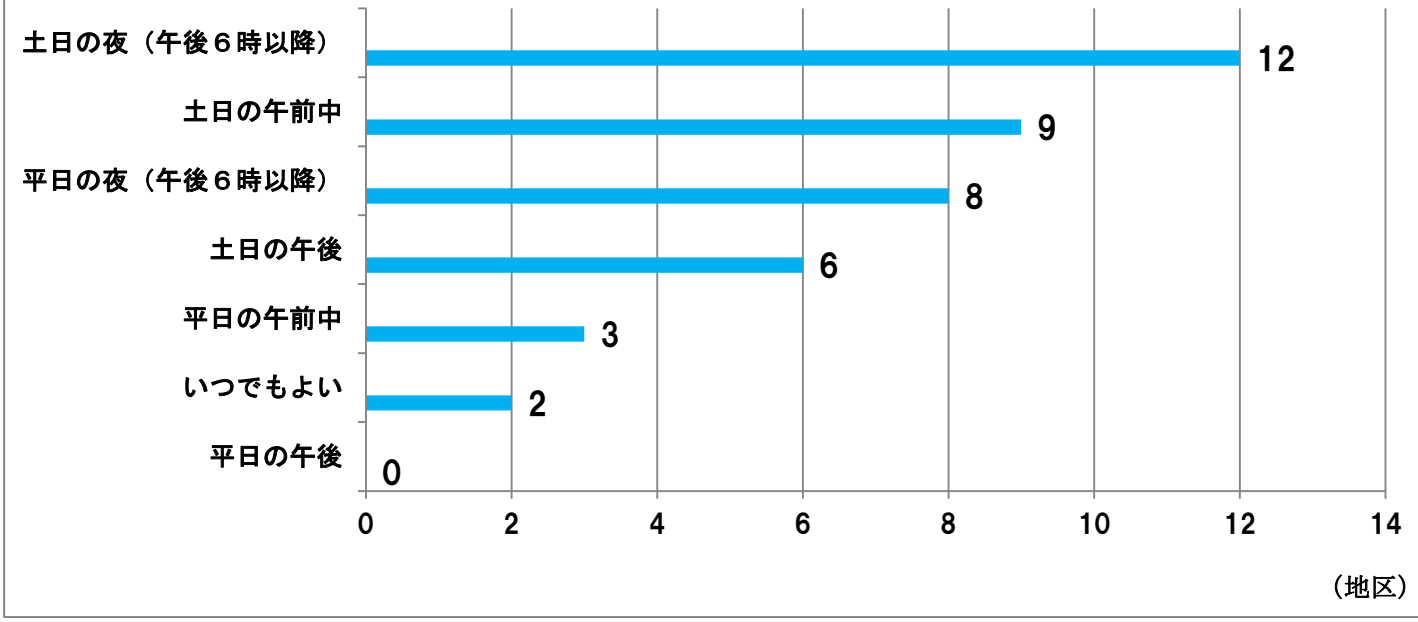
◆その他の意見

・年間行事資料をファイリングし、次年度役員へ引き継ぐ。
　今後は、サポート体制を確立していく必要がある。
・地区委員は、次年度に「顧問」という立場でサポートする。
・２名の前年度役員が顧問となり、サポートする。
・引き受けたときは、資料や清掃道具をどんと持ってこられたり、パソコンのできない親にＵＳＢを持ってきたりで大変だった。

◆考察

・多くの自治会でマニュアルを作成しており、初めての地区委員でも活動内容がわかるよう工夫されている。
・マニュアルなどのデータをＵＳＢに入れて、次の地区委員に渡すことで、スムーズに引継を行うことができている。
・毎年役員を入れ替えるのではなく、現役員が新役員をサポートできるような体制をつくることで、初めての役員の不安を取り除くことができる。
・他の自治会と交流し、マニュアルなどの引継方法を共有することで、より効率の良い方法を見つけることができる。

問５　地区委員会の開催日は、いつが良いですか。また、その理由は何ですか。（複数回答可）



◆選んだ理由

【土日（午前・午後問わず）】

・平日の地区委員会は、仕事を休まなければならない。
・仕事をしている人もいると思うので、土日のほうが良いのではないか。

【土日の夜（午後６時以降）】

・通常勤務時間帯の開催は、公務員の勝手であり、町民のためではない。
・自治会長は、現役世代が行うことが良いと思うから。
・地区委員の選出の際、平日の対応が大変という話が良く出る。働いている人でも地区委員になりやすくするために、変更が必要
・仕事を休まなければならない。
・働いている人が、仕事を休まずに出席しやすいため。
・出席しやすい。
・時間が空いているから。

【土日の午前中】

・担い手側にも都合があるため。
・平日だと、仕事を休んで出席しなければならない。

【平日の夜（午後６時以降）】

・土日は誰もが休養したいため。

・通常勤務時間帯の開催は、公務員の勝手であり、町民のためではない。

・自治会長は、現役世代が行うことが良いと思うから。

【土日の午後】

・働いている人が、仕事を休まずに出席しやすいため。

【平日の午前中】

・理由は特になし

◆考察

・平日の午前中に地区委員会を開催すると、仕事を１日休まなければならないため、土日や平日の夜を希望する声が多い。

・地区委員は、働いている世代が担っていることが多く、平日に開催される地区委員会が、地区委員の負担の１つとなっている。

・現在は、平日の午前１０時から開催しているが、地区委員会の開催日や開催時間などを変更することで、働いている世代でも、地区委員になりやすい環境をつくることができる。

問６　今年度、地区委員として活動をする中で、感じたことや思ったことなどをご自由に記入してください。

【活動の工夫】

・会社に気兼ねなく。

・町民体育大会において、小学生参加者には、自治会加入の有無を問わず、袋入りのお菓子を１人１袋渡し、自治会加入へのきっかけにしてもらおうと考えた。

・回覧板の内容を、今までより興味・関心を引くように変更した。

・町民体育大会の観覧客用の飲み物・食べ物の種類を従来よりも増加させた。

・運動会は選手集めが大変だったけど、子どもからお年寄りまでグランドに来てもらって、バタバタしながらも楽しかった。皆さんにも楽しんでもらえたと思う。

【活動の悩み】

・行政協力委員として、要請活動を遂行する一方、地域住民として、顔の見える諸活動を根付かせる輪をなかなか芽吹かせられないもどかしさを感じる。

・自治会員を代表して責任を全うする意識と、会員以外への要請にギャップを感じる。役員の成り手が減っている現状を打開するヒントがここにもありそうに思う。

・当地区は、昔から地区委員の成り手がいない。現役で働いている人は時間が取れず、高齢の人は健康面で自信が無いと言われる。もっと以前から、長い目で見てくれる人がいたら良いと思う。

・当地区の子ども会は、自治会加入が条件だが、子どもが小学校を卒業すると、自治会を退会してしまう。なので、年に２～３件退会者が発生し、加入世帯が減少している。

・マンションやアパートなどは、未加入者（独身者）も多く、これから自治会加入者の増加が見込めない。町から自治会への加入の推進を行ってもらっても、個人の自由なので、全員が加入とはいかない。これから先の自治会のあり方も考えていかなければならないと思う。

・分別収集当番が大変。マナー違反が多い。

・自治会への理解があまり得られなかった。

・役員や自治会長のやり手がいない。

・少子高齢化に伴い、町民体育大会の選手集めに限界を感じている。

・防災訓練や体育大会等の参加者集めが大変難しい。

・全ての行事に参加する人がいないので、１軒１軒訪問してお願いした。

・防災訓練について、もっと東海豪雨の教訓について伝達したり、「大山川の歴史」についても情報を提供し、学習すべきではないかと思った。

・古くからの慣例体質を変えるのが大変だった。

【町への意見】

・行政として、「住民が自治会に加入することのメリット」をどのように考えますか。
退会の理由として、若い世代は仕事・子どもの問題。老齢世帯は体力・健康の問題とともに、「加入していることのメリットは何ですか」という意見がある。

・平日の地区委員会は、仕事を休まなければならない。

・自治会活動自体は悪いとは思わないが、自主性だけでは維持が難しいご時勢にあると考える。自治会ありきではなく、町の中での自治会のあり方を考え直してみてはどうか。

・負担になるかもしれないが、もっと職員が住民のために動いてほしい。

・地区委員から、体育大会の運営方法について検討せよという意見が毎回いくつも出されるが、教育委員会は全く無視して、全て体育協会に丸投げしているように見えて仕方が無い。

・教育委員会の職員には、町出身者がいないので、実情が把握できていないように思う。

・元町議会議員や元役場職員は、公職に付けるべきではない。

・町の行政だけでなく、日赤、社会福祉協議会、赤い羽根、体育協会、子ども会、八所神社、学区自主防災の全てが自治会頼みという印象がある。現状では仕方ないと思うが、もう少し地区委員の経費軽減が必要と考える。

・自治会に求めるものは何か。

・社会福祉協議会の仕事は独自でやって頂くべきであり、地区委員としては、協力することではないと思う。

◆アンケート結果を踏まえて

・多くの自治会が、役員の担い手不足や、未加入世帯の増加に悩んでいる状況です。
また、転入者に対して加入の呼び掛けを行う際に、加入のメリットや呼びかける方法がわからず、困っている自治会が多いことが、アンケート結果からうかがえます。

・特に多かった意見について、町の意見を簡単にまとめましたので、参考にしてください。

【 加入のメリット 】

・町では、自治会に加入する最大のメリットは、災害時に自分や家族の命を守れることだと考えています。災害時の混乱の中では、行政の支援が全ての地区に行き届かず、きめ細かな対応ができないことが想定されます。それを補うためにも、自治会の『共助』の力が必要になります。

・日頃の活動を通じて近所の人と顔見知りになれば、避難するときに、お互い声を掛け合うことができ、逃げ遅れを防ぐことができます。これは、東日本大震災や熊本地震においても、実証されています。

・慣れない避難所で生活するときでも、全く知らない人同士よりも、見知った人がいる方が心強いはずです。また、知り合い同士が自然と協力し合うことで、物資の配給や避難所の運営をスムーズに行えます。

・普段の生活においても、気軽に挨拶や雑談ができるような関係を築いておけば、近所の方の小さな変化に気付くことができます。地域の中で、自然と子どもや高齢者の見守りができ、犯罪の発生や孤独死を防ぐことにもつながります。

・その他にも、回覧板で地域や町からの情報を素早く知ることができたり、一人では解決できない地域の課題でも、みんなで話し合うことで改善方法を見つけることができます。

・このように、自治会に加入することで、地域との交流が生まれ、日頃から自分や家族が安心して暮らすことができるメリットがあると考えます。

【 役員や活動の担い手の確保 】

・地区委員や役員の担い手不足、加入率の低下が深刻な課題となっています。
また、自治会に加入をしていても、活動へ積極的に参加する方が少なく、町民体育大会や防災訓練などの行事の参加者集めに苦労するという意見が多くありました。

・役員や活動の担い手を確保するためには、自治会に興味を持ってもらうことと、役員や参加者の負担を軽減する必要があると考えます。

・まず、自主的に自治会の活動に参加してもらうためには、訪問時やイベントで顔を合わせたときに、自治会に加入した方が良い理由や、活動内容を伝えるなど、少しずつでも自治会に興味を持ってもらうことが大切です。

・活動に興味を持ち、自主的に加入する人が増えれば、自治会活動への積極的な参加が期待できます。

・若い世代や、これまでとは違う団体と一緒に活動することで、新しい意見を活動に取り入れるきっかけにもなります。

・次に、活動への参加や、役員を担うことが負担だと感じている人が多いことから、活動の参加者や役員の負担を減らす必要があります。

・役員の負担を軽減するためには、役割分担を見直し、１人に負担が集中しすぎることを防いだり、思い切って本当に必要な活動に絞ったりする方法などが考えられます。

・参加者の負担を軽減するためには、地域の老人クラブや子ども会などの団体と連携したり、大学生や高校生などの若い世代を活動に呼び込み、新たな活動の担い手を確保する方法があります。

・加入者の高齢化や働く世代が増える中で、活動の担い手を確保するためには、これまでの考え方にとらわれることなく、活動内容や運営方法を柔軟に見直したり、他団体や他の自治会と連携し、誰もが活動に参加しやすい環境づくりが必要だと言えます。

【 町における今後の対応 】

・自治会が抱える課題を解決するためには、町においても、自治会の現状を理解し、今後の自治会のあり方を考えていく必要があります。

・町と自治会がともに協力できる体制を築くために、防災安全課や教育委員会を始めとする関連部署と総務課が連携を密にし、自治会との関わり方や業務内容を見直すことが必要となります。

・地区委員会の開催日については、変更を希望する声が多いことから、早急に対応していきたいと考えています。

・町では、今回の意見を踏まえつつ、自治会の必要性や加入のメリット、加入を呼びかける際の注意点などをまとめた冊子を作成し、各自治会に配布する予定です。

・来年度以降には、自治会に関する講演会を開催するなど、自治会の抱える課題や今後のあり方について考える場を設ける予定です。

・自治会が抱える課題や背景は、地域によって様々です。今後は、自治会の現状を理解した上で、町と自治会がお互いに協力していく必要があります。